



八瀬の陽だまり

伝統ある気仙沼市立月立小学校の第45代校長として着任した熊谷賢一です。どうぞよろしくお願いいたします。初代校長が小山覺次郎先生であります。明治20年（1887年）から136年、この八瀬の地の学校として地域と一緒に子供たちを育ててきた歴史ある月立小学校で、これから地域・保護者の皆様、そして教職員一同で力を合わせて、心豊かでたくましい子供たちを育てて参りたいと考えております。今後も、ご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



初代「小山覺次郎」先生

校長室だよりの題名は「八瀬の陽だまり」です。先日、PTAの皆様と懇談の機会がありました。その話の中で、新校舎を設計するに当たって、当時のPTAの皆様が何度も話し合いを重ねて、現在の校舎にたどり着いたとお聞きしました。太陽の光を燦々と集め、そのぬくもりの中で子供たちが遊び、学びを深めて行く姿を想像していたのだろうと、その当時の皆様に思いを馳せていました。初めて月立小学校の校舎を見た時、丘の上にある白色と黄色の校舎の色彩に温かさを感じたのは、その思いが時間を越えて伝わって来たものと振り返っています。

校長室は、様々な人の思い、地域の思いが詰まっている場所ともいえます。その一つに「不易流行」の書が掲げてあります。PTAの皆様の校舎建設での真剣な思いは、地域の学校をよりよくしていこうとする「不易」であり、その思いはこれからも過去と未来をつなぐものと感じています。そして、現代の潮流という「流行」との融合によって新しい時代を生きる子供たちを形作って行くものと思います。きっと陽だまりの温かさをもった大人になって行くのだろうと思います。



「不易流行」

月立小学校の学校教育目標は

「ふるさとに誇りをもち 夢と希望に満ちた 心豊かでたくましい児童の育成」です。その教育目標に向かって、先生方が大事にしようとしていることが、

「子供を真ん中においた教育活動」です。これは、令和5年4月に「こども基本法」が施行されたことによります。その趣旨は「こどもがまんなかの社会を実現するために、こどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考え～中略～こどもの権利を守る」となっております。これは、これまで以上に子どもの声に耳を傾けましょうということになります。



こども基本法

子どもは大人のコピーではなく、子どもの育ちの中で成長していきます。その育ちを地域のみならずで見守り、支え、導いて行くことがより一層必要になってきたと感じています。学校も丁寧に教えることに加えて、見守り・導くことを大切に育ちを支えて行きたいと考えています。

-----切り取り線-----

※学校や地域のことでお知らせしたいことがございましたら、下記に記入いただき、恐れ入りますが学校まで届けていただければと思います。【お名前 地区名 】